

➤ 小児外科

子どもは大人と比べて体が小さくて、臓器も脆弱で、身体的、精神的にも発達段階にあり、年齢によって対応は大きく異なります。子どもについての専門的な知識を持った外科医、それが小児外科医であり、将来をになうこども達を、誇りと情熱をもって治療しています。小児外科医は、一般外科、成人消化器外科のトレーニングを受け外科専門医を取得し、その後に小児外科の専門的なトレーニングを受けて、専門医資格を取得しています。

小児外科とは、いわゆる「小児一般外科」であり、当科では脳、心臓、大血管、整形外科の病気を除く、こどもの一般外科の病気の診療を行っております。つまり、小児の消化器外科疾患（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓）だけでなく、気管・肺疾患、腎臓・膀胱などの泌尿器疾患、卵巣疾患、陰部異常、臍の異常、鼠径ヘルニア・陰嚢水腫、睾丸異常（停留睾丸、移動性精巣、精巣捻転）などの外科疾患を中心に治療を行っています。また、便秘や、潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患などの小児消化器疾患も専門としています。

近年、国の施策として、お子さんが小児診療科から、移行期を経て成人医療診療科に移るトランジション医療が重要視されています。当科でも、患者さん個々人の状態やご家族と相談し取り組んでいます。もちろん、小児外科疾患の特殊性から、15歳を超えても、成人診療科にトランジションせずに、外科専門医としてそのまま小児外科でのフォローアップを継続している患者さんも多くみえます。

本院では、2018年11月1日より当院に小児外科が標榜され、2019年1月1日より日本小児外科学会教育関連施設にも認定され、北勢地域の医療機関の先生方や三重大学医学部附属病院と密に連携を保ちつつ、お子さんとご家族にベストの小児外科・小児消化器病医療を提供することを心がけております。

◆主疾患と治療プロトコール

- ・鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなど 入院期間 1泊2日または2泊3日（手術の翌日に退院可能です）
- ・虫垂炎 入院期間 3-7日 単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術（おへその中の傷だけで行います）
- ・全身麻酔下消化管内視鏡検査（小児の胃カメラ、大腸カメラともに可能です）
入院期間 1泊2日（検査後の治療が必要ない場合）
- ・直腸肛門内圧検査（重症便秘症、ヒルシュスプルング病の鑑別）
入院期間 日帰り入院（乳幼児では鎮静が必要です）
- ・その他、副耳、耳前瘻孔、消化管異物、頸部腫瘤・膿瘍、リンパ管腫、胃食道逆流症、胃軸捻転、上部消化管出血、肥厚性幽門狭窄症、中腸軸捻転、腸重積、メッケル憩室、腸管重複症、小腸捻転、腸閉塞、クローン病、潰瘍性大腸炎、若年性ポリープ、便秘症、内・外痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、肛門ポリープ、臍肉芽腫、臍腸管遺残、尿管遺残、腹壁ヘルニア、包茎、水腎症、卵巣嚢腫、気管切開、胃瘻造設などの治療が可能です。

入院手術名	例数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術	28
腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術+臍形成術	14
鼠径ヘルニア根治術	17
腹腔鏡下虫垂炎手術	17
精巣固定術	8
臍形成術	8
内視鏡的食道胃異物除去	4
消化管内視鏡検査	4
肥厚性幽門狭窄症 (Ramstedt) 手術	2
腹腔鏡下尿管摘出術	2
腹腔鏡下噴門形成術、胃瘻造設術	2
膿瘍ドレナージ	2
皮下腫瘍切除	2
食道手術	2
副耳手術	2
尿管摘出術	1
精巣捻転手術	1
気管切開	1
甲状舌管嚢胞摘出術	1
腸閉塞手術	1
腸回転異常症手術	1
外傷性十二指腸・小腸損傷手術	1
磁石による小腸損傷手術	1
合計	122
腹腔鏡手術	63

◆その他

当院が資格を有する当院の施設基準：

日本小児外科学会認定の教育関連施設*

*2019年より当院は日本小児外科学会より教育関連施設に認定されております。

日本小児外科学会認定の教育関連施設とは専門医育成のための専門研修施設群のひとつであり、小児外科専門医を目指す若手医師の修練の場として、患者様に安全で適切な医療を行うことができるよう心がけております。